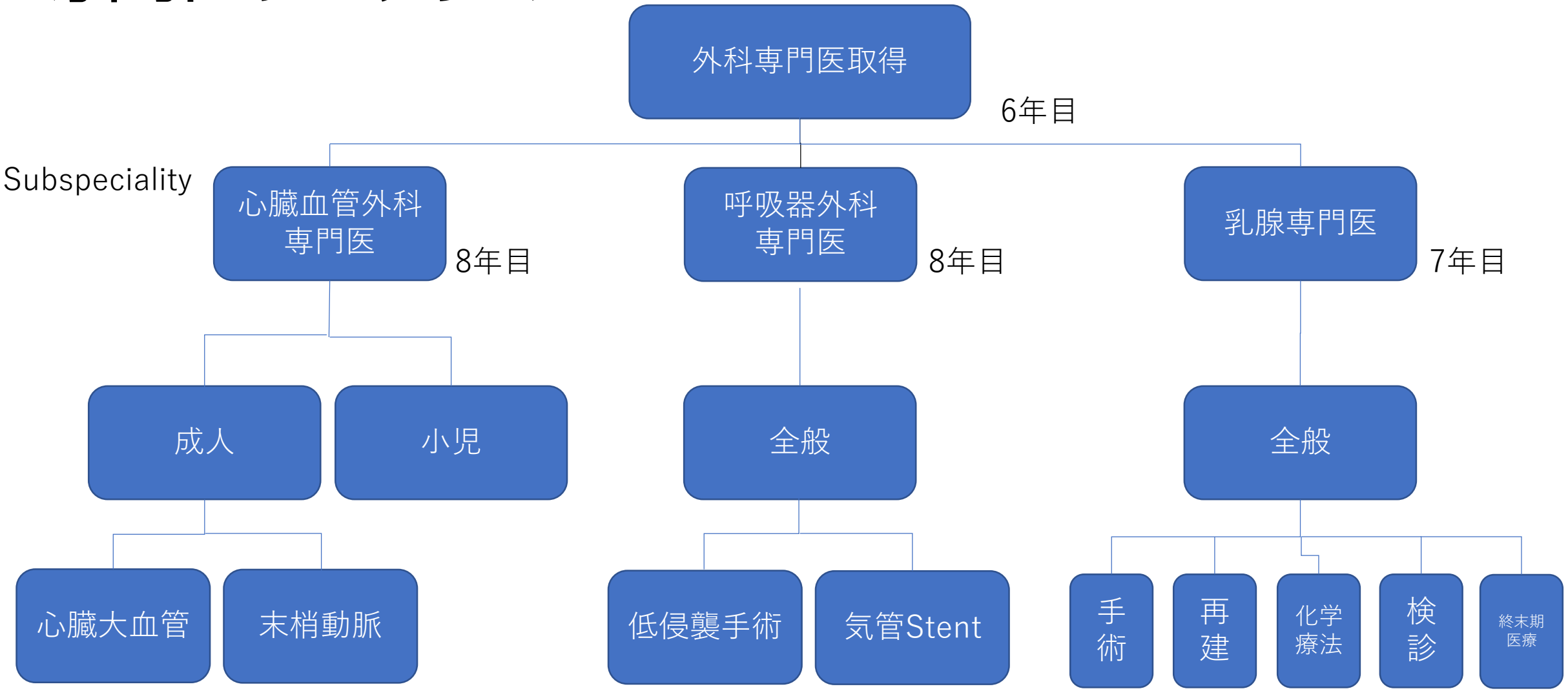
Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery

外科研修プログラム

- 外科専門医にむけて和歌山県立医科大学を基幹施設とした病院群の中での研修が可能（外科として）

公立那賀病院
国立南和歌山医療センター
橋本市民病院
労災病院
すさみ病院
岸和田徳洲会病院
と連携

専門医プログラム


外科専門医取得
6年目
Subspeciality
心臓血管外科専門医
8年目
呼吸器外科専門医
8年目
乳腺専門医
7年目
成人
小児
全般
全般
心臓大血管
末梢動脈
低侵襲手術
気管Stent
手術
再建
化学療法
検診
終末期医療

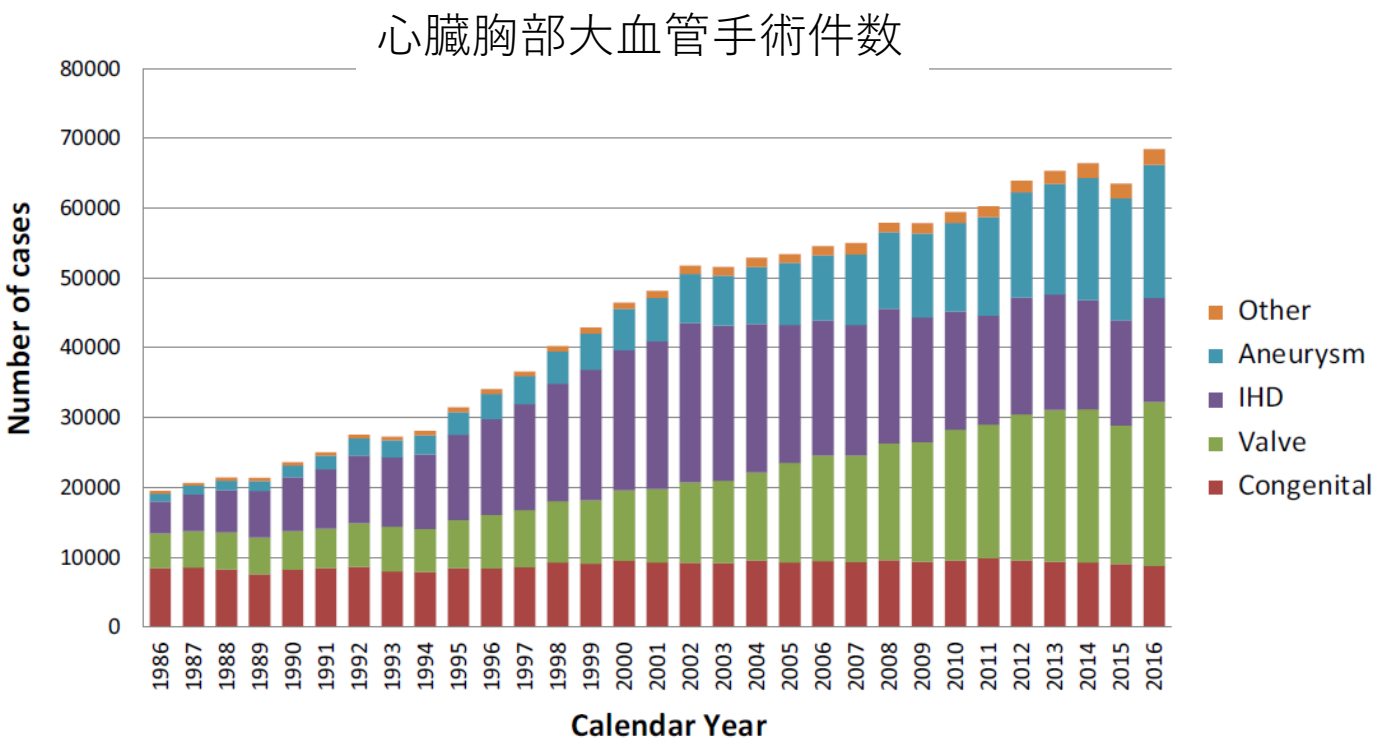
専門研修中～終了後

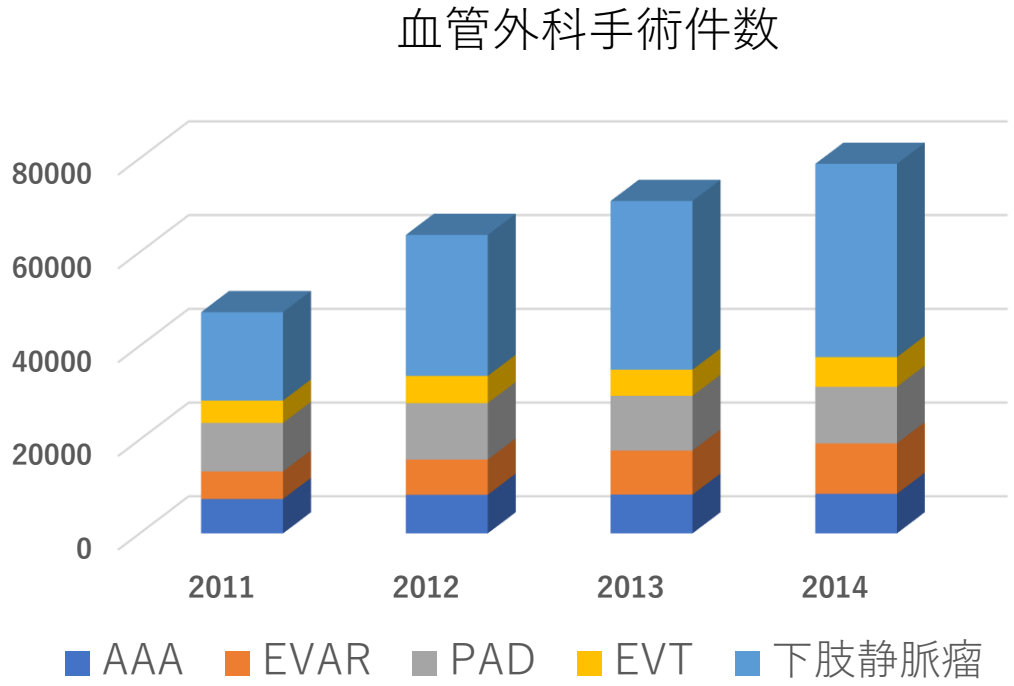
国内留学

国立循環器病センター
岸和田徳洲会病院
癌研究センター有明病院
国立がんセンター中央病院
聖マリアンナ医科大学
紀南病院
新宮医療センター

海外留学

日本胸部外科学会、血管外科学会による報告
-手術件数は年々増加-





外科学会	会員数	40146名	専門医数	23397名
心臓血管外科	会員数	4290名	専門医数	2214名

心臓外科の現在・未来

- 低侵襲手術（右小開胸や部分胸骨切開）の増加
- カテーテル治療　（胸部・腹部の動脈瘤治療、弁膜症）の増加

⇒治療の選択肢は増加しており様々な術式への対応が必要

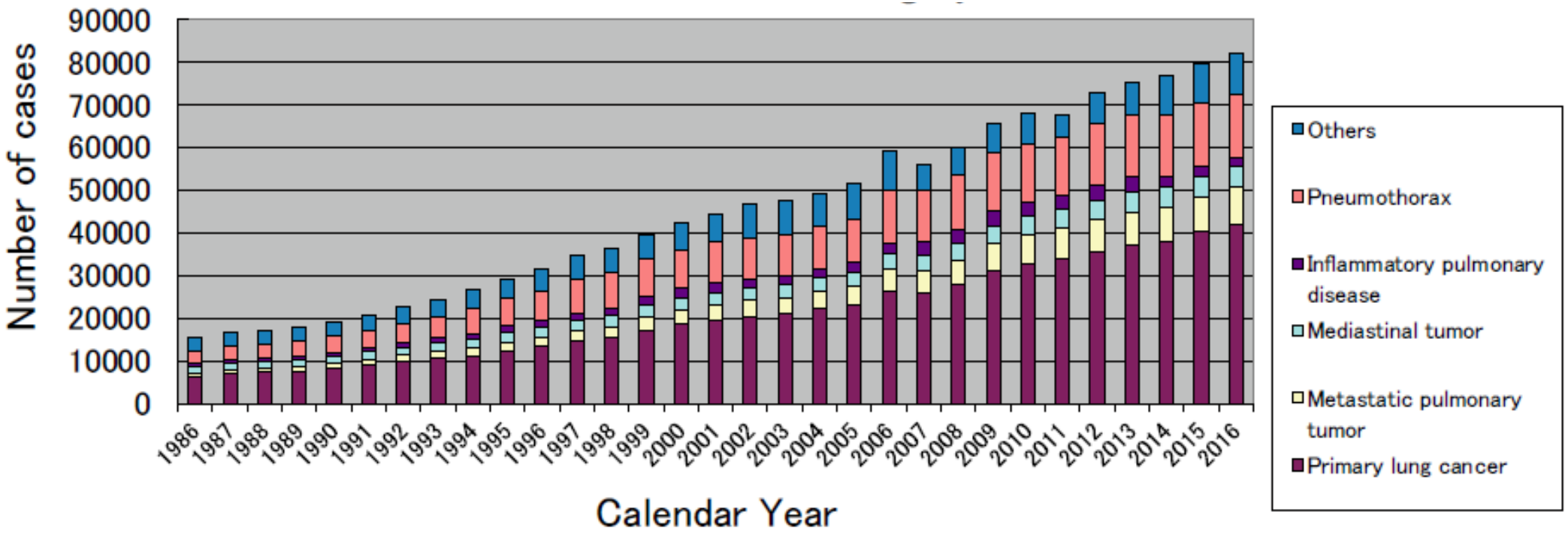
血管外科の現在・未来

- 血管専門医の数は圧倒的に少ない
- Endovascular therapyは年々増加

⇒需要に対する供給が少ないため社会のニーズは多い

呼吸器外科手術件数

右肩上がりに増加



呼吸器外科　　会員数　3100名　　専門医数　　1546名　（2020年7月現在）

和歌山県の専門医数　　9名：圧倒的に不足

呼吸器外科の最近のトピック

- 手術件数は年々増加している。
- 手術症例数に対して専門医数が少ない（特に和歌山）。
- 開胸手術、小開胸手術、完全鏡視下手術、ロボット支援下手術（Da Vinci）まで高度な技術を要する手術が保険適応。
- 鏡視下手術技術認定制度（2021年～予定）やロボット支援下手術（2018年～）、単孔式手術など、新しい術式の黎明期であり話題が多い。

専門研修中～終了後

- 専門研修施設
  和歌山県立医科大学付属病院（和歌山市）
  南和歌山医療センター（田辺市）
  公立那賀病院（紀の川市）
  和歌山病院（御坊市）

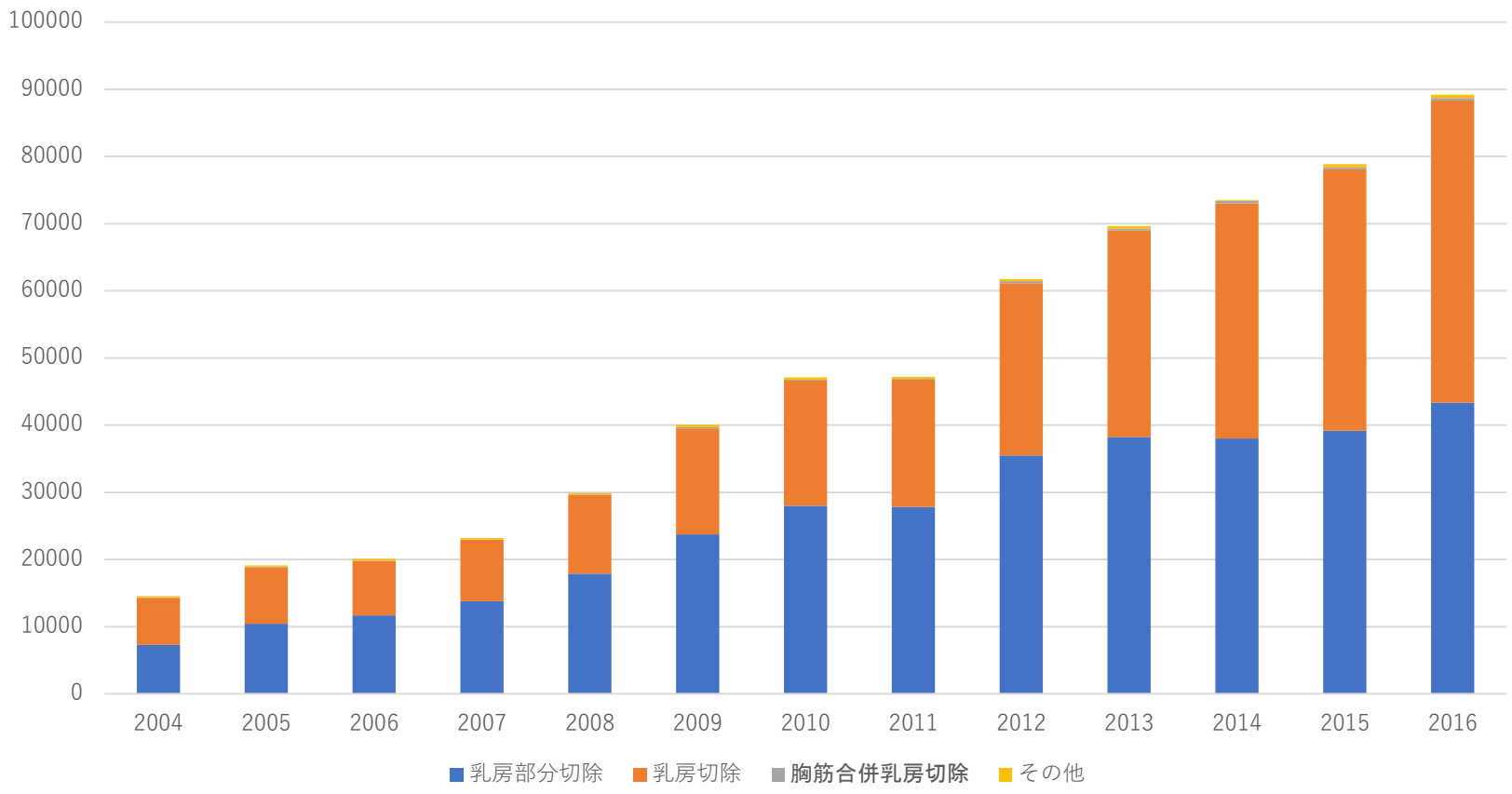
- 国内留学実績
  国立がんセンター中央病院
  がん研有明病院
  大阪市立総合医療センター

海外留学

呼吸器外科の将来

- 現在は関連の呼吸器外科施設は4施設。地域のニーズに応えられておらず、まだまだ拡大する可能性。
- 手術症例数は年々増加しているが専門医が圧倒的に不足。
- 完全鏡視下手術、ロボット支援下手術など、最新の術式が習得できる。
- 低侵襲手術を中心に新しい術式の黎明期で興味深い時期。

日本乳癌学会による報告



乳腺　　会員数　9814名　　専門医数　1690名

後期研修の目標①

- 患者、家族から広く信頼される外科専門医となる
- 疾病と患者の状態を正確に把握し、適切に治療方針を立て、それをわかりやすく伝える能力を身に付ける
- 外科的治療、手術を安全、確実に施行できる能力を身に付ける
- 外来における患者の経過観察と健康管理を適切に行う能力を身に付ける
- 臨床研究と学会発表、論文作成を遂行できる能力を身に付ける

後期研修の目標②

初期研修で身につけた基本診療手技を育成し、さらに外科専門医として必須の知識・検査手 技・手術手技を身につける。

（１）心肺蘇生法（気管内挿管も）を含む緊急処置を適切に行うことができる。

（２）外科的基本手技（輸液、輸血、IVH、抗生物質、制癌剤投与など）および手術手技（開胸術、ドレナージ術、各種術式）について正しい知識を持ち、正しく実施できる。

（３）外科的診断法として放射線診断（胸腹部単純レントゲン写真、マンモグラフィー、CT 検査、 血管造影、MRI 検査、シンチグラフィーなど）および内視鏡診断（気管支鏡検査など）について正しく理解し、十分な読影ができる。

（４）乳房や血管などの超音波検査について正しく理解し、十分な読影ができる。

（５）外科的代表疾患（自然気胸、肺良性腫瘍、乳癌、 下肢静脈瘤など）の手術適応の決定をし、自ら術者を実践できる。

（６）専門的外科疾患（乳癌、肺癌、心筋梗塞、大動脈瘤など）の手術適応の決定をし、 自ら執刀医・助手を経験できる。

（７）救急疾患（胸・腹部外傷、多発外傷、急性腹症など）の鑑別診断、手術適応、手術手技について理解し、修練できる。

（８）外科的基本態度（手術室でのチーム医療、術前カンファランスでの説明、他科に適切なタイミングでのコンサルタント、切除標本の取り扱いなど）修練できる。

胸部外科の将来

- 手術件数は各分野で年々増加している。
- 手術症例数に対して外科医、専門医数が少ない。
- 血管外科など新たな分野では若手が主力に

Open surgery だけでなくendovascular surgeryも必要
Hybrid surgeonを目指す